

国連職員は「正義の味方」か？

日時：2018年11月17日（土）14:00～17:30（13:30開場）

場所：南山大学Q棟5階 Q504教室

講師：キハラハント愛

（東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム准教授）

演題：国連平和活動要員の専門職倫理感について

講師：真嶋俊造

（広島大学大学院総合科学研究科准教授）

演題：国連平和維持活動（PKO）に参加する兵士は、
「輝く鎧を纏った、白馬の騎士」なのか？：軍事専門職倫理をふまえて

コメンテーター：山田哲也（南山大学総合政策学部教授）

国連、というと、「弱者の味方」というイメージがある。難民支援や人道支援の場を見れば、それはそれで必ずしも間違っていないのだが、ノーベル賞まで受賞したことがある平和維持活動（PKO）となると、話は変わってくる。というのも、PKOは国連の活動でありながら、各国から派遣された兵士の混成部隊であり、しかも、途上国出身の兵士が多い、という問題がある。そのため、国連本部は、PKOに派遣される軍事要員に対し、さまざまな規則類を通じて、「正しく」行動することを求めてきた。こうした状況を踏まえ、今回の懇話会では、国際機構論および戦争倫理学の専門家をお招きして、国連職員や軍事専門職の専門職倫理について、現場の視点と理論的な視点の両面から検討したい。